

中越大地震で全村崩壊した小さな山里。  
全てを失った人々、そして人生の岐路、  
ふるさと再建への想い、不屈の努力、  
これは—日本人の未来に手わたす、  
山古志の4年に及ぶ復興の記録です。



# 1000年の山古志

山古志の歴史

橋本信一 監督作品  
プロデューサー：武重邦夫、関正史、川島正英 / 音楽：森拓治 / ナレーター：長谷川初範  
撮影：松原広隆 / 編集：小島俊彦 / 録音：塩川雅之、田邊茂男 / 助監督：島田隆一 / 題字：関秀典  
企画：Takeshige スーパースタッフ・プログラム / 製作：1000年の山古志製作委員会、NPOスローライフジャパン、シネマネットJAPAN  
協力：長岡市山古志の皆さん、新潟県、防衛省、国土交通省、日本映画学校 2009年 / 日本 カラー / 120分 ©1000年の山古志  
文部科学省選定 平成21年8月20日 社会教育 少年向き / 青年向き / 成人向き

第14回防災まちづくり大賞！  
2009年度 日本映画復興奨励賞 受賞!

各回  
監督トーク  
付き

■関連事業 映画『1000年の山古志』上映会  
2010年5月16日(日) プラザおでって3F おでってホール  
【時間】①午前の部 10時開演(9時30分開場) ②午後の部 14時開演(13時30分開場)  
【料金】一般 前売り1000円(当日1200円)、小中学生 500円(前売・当日共通)  
【チケット販売】プラザおでって、盛岡劇場喫茶てあとる、カワク、いわて生協各店舗(盛岡市内)  
【後援】盛岡市、岩手県社会福祉協議会  
【主催】映画『1000年の山古志』盛岡市上映実行委員会、ロングラン・映像メディア事業部、もりおか女性センター  
【お問合せ】019-604-3303 (もりおか女性センター本館)

## 映画で初めて描かれた、「日本のムラの叙事詩」

中越大地震で全村崩壊した山古志村、人々は如何にして、故郷を取り戻したのか、日本人の心の根源に迫る、問題のドキュメンタリー映画！

### 山古志には千年の

#### 歴史があるのだ！

二〇〇四年十月三日に新潟県中越地方を襲った中越大地震は、その被害の大きさと、それによる住民の苦難については、当時ひとしきりニュースになったので、かなり知られていると思う。しかし、あれから四年あまり、あの被害者たちはどうしているか。

あの震災の直前に被害の中心地の旧山古志村で村人たちの手作りによる歴史のドキュメンタリーである『輝るまいか』を作った評判になっていた橋本信一監督は、ひきつづきこの地域の復興の記録として二〇〇〇年の山古志の撮影に入った。前作以来の地元の人々との信頼関係が見事に生かされて、この作品は、単なる被害の回復というよりは、千年の伝統を持つ村を新たに再創造しようとする人々の気持ちをその心の内側からくつきりと見つめるような鮮やかな印象を持つ作品になった。

この作品の良さは、復興を単に建物や道路などの再建という次元でなく、壊滅的な打撃を受けた産業をどう立て直すかというところに重点をおいて描いている点にある。

段々畑の田んぼに一枚を最後の仕事場と思ってきた上田源蔵さんはそこに改めて水を引くために重いホースを担いで山の頂の向を歩きまわる。やっと成功したときのその感しきような顔。父が無理づくりの名人だった原正博さんは会社社づとめを辞めて父の跡を継ぐが、分らないことばかり。だから人に助けられること、有難さが身にしみえる。

畜産をやっていた蘭子は地震のときに家の柱などの下敷きになって死んでいった牛たちがあわれでならなかった。だから今度は、そんなことにはならないような新しい設計の牛舎を建てる。

これまでの人生の積み重ねがすっかり無駄になってしまった、というような絶望的な声からはじめはいつか聞かれたのに、住民たちはどうして希望を持つ。やはり山古志がいい、ここに住みたい、と住民の多数が戻って来る。

ふるさとへのそのみんなの思いを代表するよきな、村の鎮守の社と太鼓でそして自慢の闘牛のにきわいが、古くして新しい故郷をよみがえらせる。この山古志には千年の歴史があるのだ！簡単にいへぐたれない。そう、住民たちの心意気がくぐぐと感じ取れる作品である。

【映画評論家 佐藤忠男】

### 観客の皆様からの声

1000年の山古志 川島正英さんコメント

時間を感じさせない作品でした。人々の笑顔がとても印象的でした。山古志のように地域の人が、みな家族のような関係であるからこそ復興できたのではないかと思えます。  
ドキュメンタリーの中の人々と一緒に泣き、笑いました。(30代女性)

映画終了後に拍手がおきました。皆の心に山古志の人々のふるさとへの思い、復興への強い気持ちが映画を通して伝わってきたのだと思いました。  
一人でなく村全体で支えあい、先祖の作ってきた村を守るうとする熱意が、牛、ひまわり、米、鯉をおして強く伝わってきました。村の人々の笑顔が素晴らしい。(50代女性)

困難に遭遇した後の団結力の強さを実感しました。とにかく感動の連続です。「輝るまいか」の時もそうでしたが、多くの人に観てもらいたい歴史的な作品と想っています。(70代男性)

